

I 研究部運営計画

1 研究主題

確かな読み取りの力を育む国語科の指導

～ 「読むこと」における学びの系統性と学び合いの工夫を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 今日的な教育課題から

次期学習指導要領の改定のポイントとして、学校における質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身につけ生涯にわたってアクティブに学びつづけるための「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。

国語科においても改善の基本方針として「言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる国語の能力を身につけること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」に重点を置いて内容の改善を図っている。特に、言語を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを重視している。

(2) 教育目標の具現化から

本校の教育「かしこく」、「やさしく」、「たくましく」が目指す子ども像は、「進んで学ぶ子」、「思いやりのある子」、「健康でたくましい子ども」である。これは、一人一人の子どもがお互いのよさを認め合いながら、意欲と創造性に満ち、主体的に学ぶことで、心身ともに健康でたくましく、実践力を備えた子に成長することを願ったものである。まさに、知・徳・体の調和の取れた「生きる力」を育むことである。

本研究では、「進んで学ぶ子」を育てることに重点を置き、国語科の「読むこと」の授業実践を通し、確かな読みの力を高めていける子どもを育てていきたいと考える。

(3) これまでの研究の経過から

平成28年度は、算数科において「算数の楽しさを実感する児童の育成」を研究主題、副題には「主体的に問いを見出し、協働的に学習する授業を通して」として、問題解決に向けた見通しを一人一人がもてるように、解決の必要感をもたせたり既習を活用したりする導入の工夫や数学的な考え方を育て、深め、より価値の高いものを見出していく展開の工夫に取り組んだ。ねらいに即した問題提示や生活と結びつけた問題提示をすることにより、児童の「やってみたい」という意識が高まったり、思考を深めるための学習形態の工夫をすることにより、多様な考えにふれながら自分の考えをより深めることができたりした。

町教育委員会から平成29年度から30年度の2年間にわたり国語科の指定を受け、初年度となる今年度、昨年度までの算数科で行ってきた児童の意欲を大切にすることを引き継ぎ、あわせて系統性を重視し、対話を通して児童の確かな読みの力を育てていきたいと考える。

(4) 児童の実態から

本校は、本年度が統合初年度であり、3校が統合して児童数が115名となった。

一昨年度から、統合を見据えて3校合同での学習や社会科見学など、児童同士の交流を中心に取り組んできた。

交流学習の様子から3校の児童は、素直であり、物事に前向きに取り組んでいる。また、交流学習の中でも互いを認め合い、協力しながら活動する姿が見られた。

CRTの結果を見ると、「読む能力」は、3校とも全国平均を学年によって下回っている状況にあるものの、過去数年の経過から全国平均との差も減少傾向となっている。日常の指導から、読む力の育成として教材をとらえ、ねらいを明確にした授業に取り組んでいるが、読み方の技能を自分の力とし、活用しながら読み進めていく力が十分身につけているとはいえない。また、読みを深めていくうえで、自分の考えをもつにとどまり、友達と互いの考えを双方向で交流し、学び合う力も十分に身につけているとはいえない。さらに、交流活動については、複式の授業を行ってきた2校の児童は、不慣れであり、年度当初は十分に配慮していかなければならないと捉えている。

これらのことから、本年度は、昨年度の研究成果と統合のねらいを踏まえ、系統性を重視した「読むこと」の土台作りと、子どもたち同士が対話することにより、自分自身の読みの進化・拡充を実感させながら文章を読み取る確かな力を育成していきたいと考える。

3 研究目標

対話的な学びを通して、確かな読みの力を育成する指導のあり方を実践的に明らかにする。

4 研究仮説

系統性を重視し、対話的な学びの工夫をすることにより「根拠を明確にし、自分の考えを形成させながら内容を読み取る力」が育つであろう。

(1) 学びの系統性を重視した「読み方」の指導

(2) 対話を中心とした「学び合う」授業

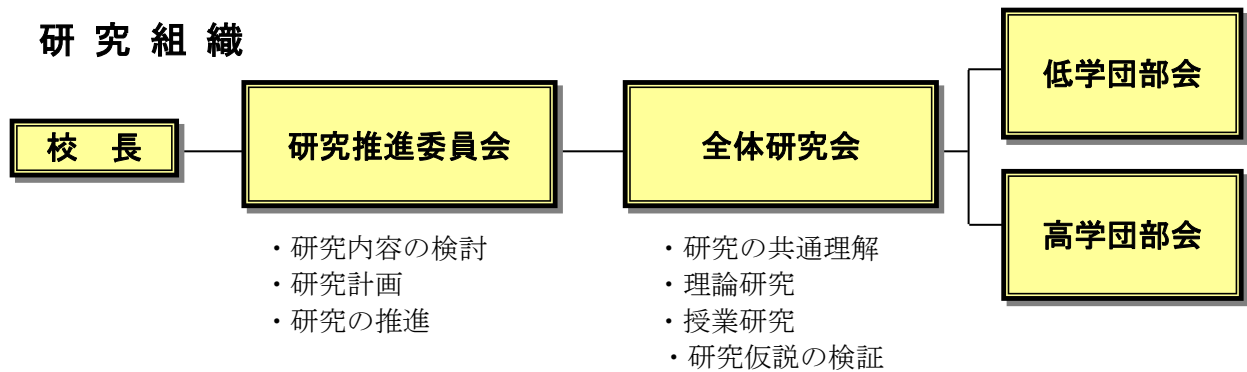
5 研究内容

- (1) 身につけさせたい力と学年の系統性を重視した単元構成表の検討
- (2) 「学び合い」のための「問い」の持たせ方の工夫
- (3) 発達段階における「学び合う子ども像」の明確化
- (4) 集団の考えを深めるための「学び合い」の指導の工夫
- (5) 自分の変容を自覚できる「振り返り」の工夫

6 研究方法

- (1) 実践研究・・・授業実践・授業研究会・日常実践
- (2) 理論研究・・・文献・先行研究
- (3) 調査研究・・・各種学力調査・質問紙
- (4) 先進校視察・・・学校公開・研究会等への参加

7 研究組織



8 研究全体構想図

＜学校教育目標＞

かしこく やさしく たくましく

（具体目標） 1 進んで学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 健康でたくましい子

国語科で目指す児童像

根拠を明確にし、自分の考えを形成させながら内容を読み取ることができる子ども

研究主題

確かな読み取りの力を育む国語科の指導

—「読むこと」における学びの系統性と学び合いの工夫を通して—

研究仮説

国語科において、次の視点で授業改善を図れば、確かな読み取りの力を高めることができるであろう。

- （１）学びの系統性を重視した「読み方」の指導
- （２）対話を中心とした「学び合う」授業の工夫

研究内容

（１）仮説１に関わって

- ・学年の系統性を重視した単元構成表
- ・一人一人の「読み」の土台作り

（２）仮説２に関わって

- ・ねらいの明確化（教材研究）
- ・共通の「問い」の持たせ方の工夫
- ・教師と児童、児童と児童の対話的学びの場の設定（ペア、グループ、一斉学習などの学習形態の工夫）

○読書活動の充実○

朝活動や給食の待ち時間を活用して、児童が進んで読書に親しむ。

9 年間計画

(4月1日現在)

回	月 日	曜日	教科等	研 究 内 容	講師
1	4月13日	木	道徳	道徳研修会	校長
2	4月27日	木		生徒指導研究会	生徒指導
3	5月11日	木	国語	国語研究計画	研究部
4	5月25日	木	国語	第1回指導案検討会	
5	6月 8日	木		特別支援研修会	特別支援
6	6月29日	木	国語	第1回授業研究会 年 年	指導主事
7	7月 6日	木	国語	第1回授業研究会反省	研究部
8	8月 3日	木	国語	第2回指導案検討会 年 年	研究部
9	8月31日	木	国語	第2回授業研究会 年 年	指導主事
10	9月28日	木	国語	校内研究会（勉強会）	
11	10月 5日	木		生徒指導事例研究会	生徒指導
12	11月 2日	木	国語	第3回指導案検討会 年 年	研究部
13	11月30日	木	国語	第3回授業研究会 年 年	指導主事
14	1月10日	水	体育	校内研究会スキー研修	体育
15	1月25日	木	学力向上	全国学調分析	学力向上
16	2月 1日	木	学力向上	CRTの分析	学力向上
17	2月22日	木	国語	国語研究のまとめ	研究部
18	3月 1日	木	国語	次年度構想	研究部

II 授業を支える土台について

1 読書活動

活 動 名	日 時 等	方 法
朝 読 書	8:15～8:25 (火をのぞく)	「おすすめの本」「並行読書」「自由読書」に取り組む。
給食待ち時間読書	12:15～12:30	
「おすすめの本」カード	5月から2月	
読み聞かせ	年6回、読書月間	
読書月間	11月	
親子読書カード	長期休業中	
並行読書	学習時	国語科の学習の際に関連する本を教室に備え、読書に取り組む。
課題図書を読んだ読書感想文		町の読書感想文コンクールへ応募するため、全校児童が読書感想文を書く。その際、読書の幅を広げることから、課題図書を読み、読書感想文を書く。

2 音読活動

- (1) 家庭音読・・・音読カードを準備し、「今月の詩」と「学級の課題」に取り組む。
- (2) 音読発表・・・学習発表会で全校群読を発表する。

3 その他

- (1) 学習習慣や学習訓練
- (2) 家庭との連携・・・家庭学習の進め方について、連携して取り組む。